

## 安中台地内村有地の有効活用について

富田 隆雄 議員

**質問** 西洋環境開発が安中台地の開発を計画しましたが、バブル崩壊により、馬見山・馬掛・根本地区合わせて22ヘクタールの土地を譲渡・撤退し、その土地が20年以上も荒野として何もなくなされていない状況です。国指定の遺跡、陸平貝塚、週末フアーマー地を含めた村有地をどのように有効活用するのかお伺いします。

特に馬掛・根本台には12ヘクタールの村有地があり、筑波山・霞ヶ浦を一望する風光明媚な地域があります。村長はどのような構想を持っているのかお伺いします。

**答弁（総務部長）** 安中台地には、平成13年に西洋環境開発より寄附を受けた土地が約22ヘクタールございます。水田や畑約2ヘクタール、山林が14ヘクタール、

原野が約6ヘクタールで、各区域に分かれ点在しているといった状況です。

土地の活用方法につきまして、県の企画部サイドと協議をしてきた経緯はございますが、実現には至らなかったのが実情です。そのような中でも村は、霞ヶ浦湖畔の眺望がすばらしく、訪れた人の憩いの場となる馬掛台公園を平成21年度から整備してまいりました。

しかし、この土地の活用には課題もございます。1つ目といたしまして、12ヘクタールの中に民有地が入り込んでいること。2つ目、大きな埋蔵文化財遺跡があること。3つ目、都市計画法で市街化調整区域に該当いたしますので、開発行為が難しい状況にあるということです。

**質問** 土地自体が点在しているということ、非常にやりにくいとは思いますが、村に移管された土地でありますので、交換分合などを考えながら、1つの区域をある程度の面積をまとめてもらわないと、安中地区がますます活性化できなくなってしまう。村長の考えをお伺いします。

**答弁（村長）** 美浦村として、工業団地はつくってございませぬ。村がある程度、事業者を誘致できるようにするには、建設予定地の遺跡の発掘等が終了することが条件となります。諸条件を、全部クリアしておかないければ事業者は、そこに来ないのかなというふうに思います。

今、工業ゾーンの日本テキサス・インスツルメンツのわきも、できるだけ美浦村の中で早めに調査を終えて、事業者を誘致できるように状態を整えていこうと思っています。

**質問** 村長初め、終戦後生まれの人が65歳になってまいりました。ますます増えてくる少子高齢化、その観点から、霞ヶ浦に面した地域での高齢者施設計画、自然を生かした家族で集えるような施設等考えていないのか村長にお伺いします。

**答弁（村長）** 高齢者の施設が、村内には4か所あり、ある程度整備ができています。集える場所ということ、温泉があつてというのは難しい部分ではありますが、現在龍ヶ崎市では、焼却施設を利用した施設を運営しております。そういう余熱を利用した部分で、集うところができればと思います。

安中地区の開発という部分についても最先端型5ヘクタール未満という部分はぜひアピールして、条件も踏まえて、村は提示していきたいと思っております。